

第 25 期第 4 回 IGU 分科会 議事要旨

日時： 2022 年 3 月 22 日（火） 13 時 00 分～15 時 00 分

場所： 遠隔会議

出席者（敬称略）： 矢野桂司， 春山成子， 阿部彩子， 池口明子， 石川徹， 石川義孝， 井田仁康， 伊藤香織， 岡橋秀典， 小口高， 奥村晃史， 久保純子， 近藤昭彦， 篠田雅人， 鈴木康弘， 竹内裕一， 中澤高志， 中谷友樹， 氷見山幸夫， 山崎孝史， 山下潤， 山本佳世子， 横山智， 吉田道代， 渡辺浩平

欠席者（敬称略）： 森田喬， 近藤康久

※ 委員 27 名中 25 名の出席により委員会は成立した。

配付資料：

資料 1： 前回（第 3 回分科会）議事録

資料 2_1： IGU 分科会活動報告 202109～202203

資料 2_2： IAPG Declaration against War and Authoritarianism for the Affirmation of Human Freedom and Dignity

資料 2_3： Joint statement-Geography and Indigenous languages

資料 2_4： Declaration 和訳

資料 2_5： IYBSSD_siry02501-1

資料 2_6： IYBSSD_siry02501-6

資料 2_7： Pandemic 連絡会議【参画希望調査】IGU 分科会

資料 2_8： CN 連絡会議資料

資料 2_9： 加入国際学術団体調査票・概要紙

資料 2_10： IGU support letter

資料 2_11： IGU NEWS202109-202203

資料 3： GeoNight2021_2022_IGU20220322

資料 4_1： 国際会議開催計画書 2203

資料 4_2： 会場関連図 20220319

資料 4_3： セッション構成案 20220319

資料 4_4： 学情センター優良施設写真

資料 5： 話題提供用資料（山崎）

議事等：

1. 議事録の確認

・ 前回議事録（資料 1）の内容を確認した。

2. 国際状況について（議題の順番を繰り上げた）

・昨今の国際情勢を背景とした地理学にかかわる言論状況について、資料 5 をもとに山崎委員から話題提供があり、紛争地域の地図表現や地理学の課題について議論した。

・氷見山委員より、IGU 役員会がロシアのウクライナへの侵攻に関する声明を発出したこと、その中で IGU ロシア国内委員会の IGU 正会員資格の一時停止を宣言していることについて報告があり、日本委員会でも声明に対する評価を議論してほしいとの意見が出された。

3. テーマセッションの準備状況等

・資料 4-1~4 に基づき、山崎委員より報告があった。予算編成や会場設営、セッション構成について説明があり、今後の課題として参加者に応じたセッションの再構成・バーチャルセッションの設定、ホテル・レストラン等の手配、さらなる予算獲得、関連学会への呼びかけなどが示された。日本委員会が共催し、実施に向けて支援することを再確認した。

4. IGC の活動報告

・資料 2_1 に基づいて 2021 年 9 月~2022 年 3 月までの活動内容を確認した。

・IGU 役員会からの働きかけに応じて、IAPG (International Association for Promoting Geoethics) による声明 (“Declaration against war and authoritarianism for the affirmation of human freedom and dignity”；資料 2_2) への賛同表明を行うこととした。

・UN 国連先住民言語の 10 年 (2022-2032) に対する支持表明を 2022 年 2 月) に行ったことについて、資料 2_3,4 に基づき報告があった。

・IGU の 4 つの賞へそれぞれ日本から推薦したことについて資料 2_1 に基づき報告があった。

・学術会議内に、IYBSSD (持続可能な発展のための国際基礎科学年) 連絡会議が設立されたことが資料 2_5,6 に基づき報告された。連絡会議メンバーの氷見山委員より連絡会議の活動内容について補足説明があり、基礎と応用の両面をもつ地理学からの貢献の必要性が提起された。

・学術会議における Pandemic 連絡会議への参画希望調査について資料 2_7 に基づき報告があった。COVID-19 に関連する複数のキーワードのうち、格差社会、社会システム、DX、公衆衛生、One Health に対して、地理学として関心があることを表明したことを確認した。COVID-19 への対応に加えて中長期的な視点で将来のパンデミックに耐えられるレジリエントな社会を視野に入れた議論も視野に入れる。IGU 分科会は資料 2_7 のとおり回答済みである。

・カーボンニュートラル (CN) に関する連絡会議について、資料 2_8 に基づき報告があった。当面、鈴木委員長が参加しているが、専門性に近い委員に引き継いでいきたいとの要望があった。

・学術会議に提出した「加入国際学術団体調査票・概要紙」について資料 2_9 に基

づき報告があった。日本として分担金を今後も支払うべきことを示す重要な資料で、IGU 会長からの推薦文（資料 2_10）を添えて 2001 年 9 月に提出済みである。

・資料 2_11 に基づいて、2021 年 9 月以降の IGU ニュースの概要について報告があった。内容は分科会のメーリングリストで転送済みである。

5. その他

・資料 3 に基づき、伊藤委員より GeoNight について 2021 年の実施の報告及び 2022 年の企画案の提示があった。2022 年 4 月 1 日に説明会が開催される「ジオパークでジオキャッシング」をテーマとしたアウトリーチイベントに対して、日本地理学会及び日本地図学会とともに IGU 日本委員会が主催となることが承認された。

・氷見山委員より、IGU の活動に対して積極的な日本からの提案が求められているとの意見があった。

・この後、委員長のオンライン回線が切れたため、会議終了とし、その他の報告は、下記の通りメールで追加された。

・ICA 小委員会の伊藤委員より、委員追加及びフィレンツェでの ICC2021 開催についてメールで報告があった。

・IAG 小委員会の小口委員より、IAG の動向と今後の対応についてメールで報告があった。

・地名小委員会の渡辺委員より、地名小委員会の動向と今後の対応についてメールで報告があった。地名標準化についての重要性の認識を広めるための提案を、IGU 分科会と地域研究委員会地域情報分科会ならびに地名小委員会が合同で作成すること、地域情報分科会が主たる作成に関わる検討を行うことが説明された。これに対し、正式に IGU 分科会が加わるかどうかは次回の分科会での審議事項とした。

以上